



21世紀の幕開け 明るい未来へ

12月26日 三十三俵の奉納(蒔田・金比羅宮)

吉田意智男さんをはじめとする蒔田地区の有志らが12月26日、五穀豊穰と無病息災を願い、金比羅宮の鳥居に「三十三俵」を奉納しました。

最近では珍しくなった三十三俵の奉納。蒔田地区では、蒔田むらづくり推進協議会が平成10年に日本農林漁業振興会長賞を受賞したのを機に復活させ、以来毎年行っています。吉田さんは「来年以降も元気なうちは続けていきたい。できれば若い人たちに継承してほしい」と話していました。

年頭のズいあいさつ

金木町長

鳴海 義男



輝かしい二十一世紀の年頭にあたり謹んでお喜びを申し上げます。

私事で恐縮ですが、昨年の「車検切れ」によるマイカーでの事故については、町民の皆様には大変ご迷惑をお掛けし、衷心よりお詫び申し上げます。

幸いにして人身事故には至

らず、また、年末には不起訴処分が確定したとはいえ、今さらながら責任の重大さを痛感するとともに、この体験を今後の交通安全運動に役立てることが、私に与えられた使命であると自覚しているとこそでございます。

さて、過疎化の進行と景気低迷により町内の商工業や農

林業が依然として厳しい状況にある中で、昨年四月に開館した「津軽三味線会館」は、津軽三味線の生演奏が堪能できることから観光客に好評を博し、隣接する太宰治記念館「斜陽館」、観光物産館「マデイニー」とともに連日にぎわっており、奥津軽の観光拠点になるものと確信しております。

今年はいこれらの施設と連動させ、産業振興による町の活性化をめざした基本計画を策定したいと考えております。町の活性化には、若年層の定着化が急務であり、男子雇用型企業の誘致に全力を傾注する覚悟でございます。

平成十年度に着手した蒔田地区農業集落排水処理事業（下水道施設）は、今秋には一部供用開始される見込みであり、生活環境の改善に資するものと期待されています。これを皮切りに各地区に順次整備を進める計画であります。

また、金木川改修事業による跡地の活用や老朽化した町営住宅の建て替えなどについて、町民の皆様のご意見を反映させた基本計画を策定し、町の活性化を図ることも重要

であると認識しております。

新世紀とはいえ、少子・高齢化の進展と日常生活圏の広域化、地方分権の進展と厳しい財政状況が続く中で、地方自治体に求められるものは著しく多様化・高度化してきており、これらの課題に対応する有力な手段の一つとして市町村合併がさげばれております。市町村合併は、各地区の将来や町民の皆様の生活に大きな影響を及ぼすことが予想

されることから、活発な議論を期待するものであります。町の将来を担う子どもたちの教育環境の充実や高齢化社会に対応した福祉対策のさらなる向上など、地方の時代にふさわしいまちづくりのため今後とも至誠一貫、町政伸展のため努力する所存でございますので、本年も変わらぬご支援とご協力のほどお願い申し上げます。

今年はい年

約二千七百種も生息

蛇は爬虫類へヒ垂目の動物で、トカゲと同じ祖先をもつといわれています。

体は細長く、四肢はありません。細い舌の先端は二またに分かれていてよく動きます。こんな異様な外見から、蛇を嫌う人が多いようです。

蛇は温帯、熱帯、亜熱帯に多く生息し、アラスカ、シベリアなど寒い地方にもいます。全世界に約二千七百種もいるといわれています。

蛇は悪者？ 神？

日本の神話に登場する蛇はヤマタノオロチ（八岐大蛇）といって、頭が八つ尾が八つ、体の長さは八つの谷を越えるほどだったといえます。そのオロチが娘を食いにきて、スサノオノミコトという神に退治されたという話です。

一方、蛇は神格化され、聖書や神話にもしばしば登場します。また、水の神として信仰されたり、家の守り神として家に住みつくのを喜んだりする例もあります。

このように、蛇は悪者として恐れられてもいますが、神としてあ

年頭の辞

金木町議会議長

三 瀉 春 樹



新年あけましておめでとう
ございます。

明るい希望に満ちた新春を
迎え、町議会を代表し町民の
皆様に心からお喜びを申し上
げます。

本年は二十一世紀のスター
トの年であり、われわれ議員
一同気持ち新たにしている
ところでございます。

さて昨年は、当町の観光の
拠点となる斜陽館、観光物産
館マイエニー、津軽三味線會
館の三施設が一体となり、当
町を訪れる多数の観光客に利
用され、町の活性化の一助に
なっていると思えます。

昨今は、市町村合併の問題
が避けて通れないものとなっ
ております。県で示した合併
パターンによれば、地域中心
都市創造型ということで五所
川原市と西北十町村の合併パ
ターンが示されたところです
が、合併するには未だいくつ
もの難関をクリアしなければ
ならないと思えます。

輝かしい二十一世紀を迎え
るにあたり、合併問題をはじ
め、観光、教育、福祉、生活
関連施設等山積みする諸問題
を、町民の皆様の意見を拝聴
しつつ、議決機関として皆様
方の負託に応え、町発展に尽

力する決意でありますので、
町民の皆様のご協力、ご理解
を賜りたいと思う次第であり
ます。
最後に、皆様方のご健勝と
ご多幸を心から祈念いたしま
して、新年のご挨拶といたし
ます。

副議長 中谷 秀八

議員 高杉 利彦

議員 田中 昇

議員 古川 幸治

議員 秋元 洋子

議員 田中 賢一

議員 伊藤 永慈

議員 川口 隆

議員 原田 寛

議員 加藤 磐

議員 野宮 一穂

議員 桑田 茂

議員 小田桐喜吉

がめられることもあり、いろい
ろな話が世界各地に伝わって
います。

また、毒蛇が恐れられ、嫌わ
れるのはもちろんですが、それを薬
用にする例もあり、強壮剤として
も珍重されています。

蛇の絵に足を書きたず

蛇は、古くから人間とかわり
が多い動物だけに、蛇に関する故
事やことわざもいろいろありま
す。

「蛇足」。これはよく知られて
いる言葉で日常会話にも使われ
ていますが、こんな由来があります。

昔、楚の国の役人が、蛇の絵を
一番早く書いた者が酒を飲むこ
とができるという競争をしました。
一人がいち早く完成したにもか
かわらず、時間に余裕があったの
で足を書きたしてしまい、負けて
しまったという話です。

そのことから、あつても意味の

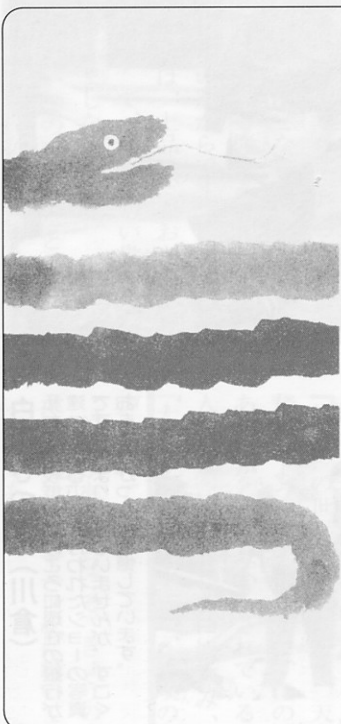
ないもの、余計なことという意味
に使われています。

「蛇の道はへび」も、よく聞
くことわざです。「へび」とい
う「へび」というのも、呼び方が違
うだけで同じもの。同じ仲間のや
うにうなるように分かるという
意味です。

「数蛇」 「数をついで蛇を出
す」。しなくつよいことをし、
かえつてよくなる結果になるこ
とです。

心豊かに暮らせる年
「蛇穴を出し」という言葉もあ
ります。冬眠していた蛇が、春暖
になると地上に出ることをい
います。

二十一世紀の始まりの今年は何
年。低迷していた景気から脱出
して春を迎え、みんなが安心して心
豊かに暮らせる年にしたいもので
す。



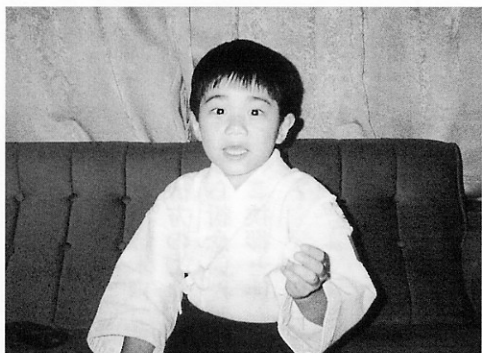
21世紀 わたしのページ

テーマ「金木町」

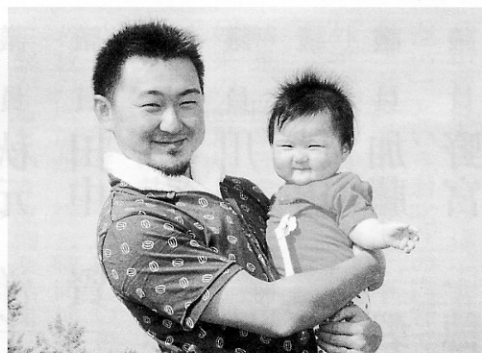
昨年の広報かなぎ11月号で募集し、みなさんから寄せられた写真やイラストをご紹介します。



太田 梓美 (金木)
芦野公園に、大きなシート
| を作って友達といっばい
遊びたいな



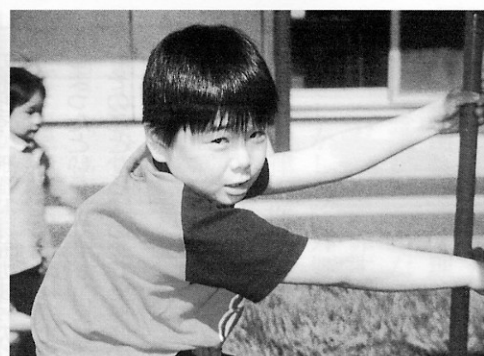
逢坂 奉紀 (金木)
今年も剣道がんばります



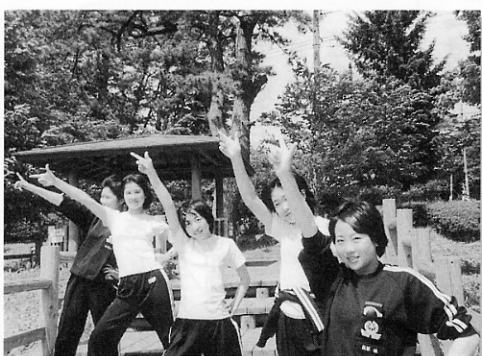
吉崎 聖志 (嘉瀬)
芦野公園が大好き



外崎 園果 (金木)
わたしの笑顔は、
金木で一番！



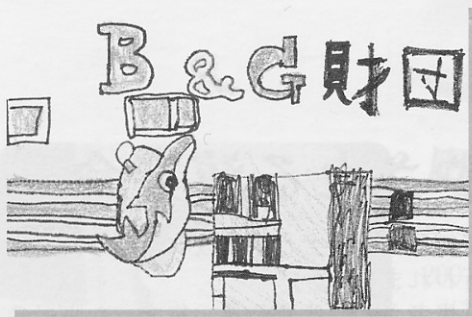
松尾 成悟 (金木)
ほくの笑顔は、
金木町で一番！



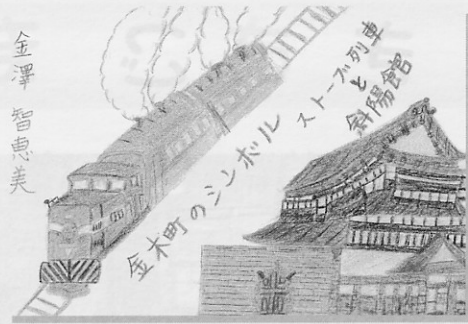
伊藤 摩美 (喜良市)
金木町防衛少女隊
見参ですわ！



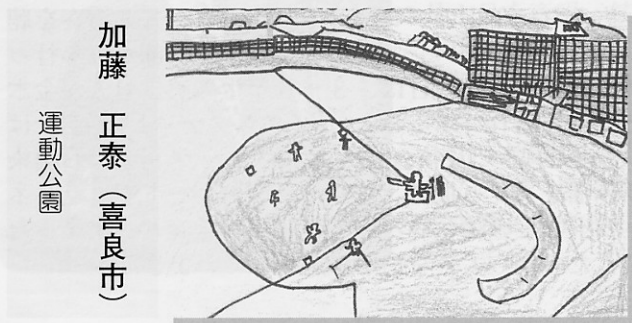
白川さつき (川倉)
私が小学校低学年のころに現在の銀行が
建っている辺りで行われたシヨウの写真
です。あまり覚えていませんが、すこ
くおもしろかったと記憶しています。



長内 大生 (喜良市)
 ぼくはB&Gプールが
 大好きです



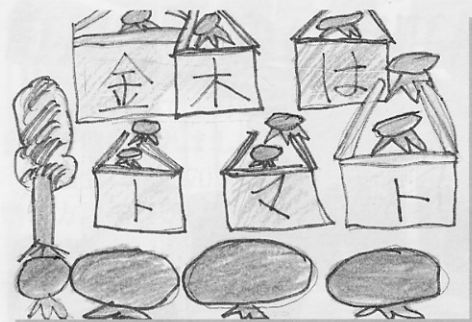
金澤智恵美 (嘉瀬)
 金木町のシンボル



前田 祥乃 (喜良市)
 私たちの喜良市小学校。
 喜良市小学校は三味線
 が有名です。



成田 理紗 (喜良市)
 みはらし台が楽しい
 場所になればいいです。



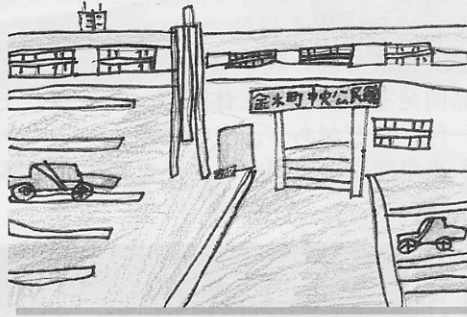
田村 直也 (喜良市)
 金木はトマト



今 優輔 (喜良市)
 ぼくはよく公民館に行きま
 す。だから楽しい行事がた
 くさんあればいいです。



田中 麻耶 (嘉瀬)
 私のお話すること聞かせる？
 聞いてくれる？ 地吹雪
 に向かって叫んでみた。



斜陽、人間失格等、有名な作品を手がけた太宰治の故郷である金木町には毎年観光客が絶えません。特に、町中にある斜陽館は多くの人が訪れます。太宰ファンは中を見学していく事で、大変うれしそうに様子でこの金木町を後にします。また、芦野湖の浮橋、地吹雪体験ツアー、津軽を走るオレンジ色で印象的な「走れメロス号」、津軽三味線会館。全て金木町の誇りだと思っています。この町をもっと誇れるよう僕達が頑張っていきたいと思います。』



今 麻実 (喜良市)
 『ひばりの見つけた冬げしき』
 私は、このけしがすごく好きなので、この場所にもう少し木をふやこっほこいです。



吉崎 航 (嘉瀬)
 今年ががんばるぞー



泉谷 優太 (川倉)
 『金木町のほこり』



心いやされる演奏会

金木病院で12月22日、金木小学校吹奏楽部による慰問演奏が行われました。

演奏会は「患者さんや病院職員、集まった町民の方たちに年末のプレゼントとして生の音楽演奏を聴いてもらいたい」と金木小学校吹奏楽部が毎年行っています。この日は、3～6年生の部員41人が金木病院を訪れ「ふるさと」「イエスタディ」「美空ひばりメドレー」「慎吾ママのおはロック」などお馴染み曲を次々と披露。ロビーにはフルートやクラリネットなどの美しいハーモニーが響き渡り、集まった人たちから大きな拍手が送られていました。

川倉に待望のふれあいセンター完成

県営奥津軽地区中山間地域総合整備事業を受けて建設された「川倉ふれあいセンター」が完成し、12月26日に関係者や地区の住民ら約130名が出席して竣工・祝賀会が開催されました。

竣工式では、鳴海町長をはじめとする代表者が玉串を奉奠。続く祝賀会で、鳴海町長が「地域のふれあいの場として末永く、大いに利用してください」とあいさつし、センターの完成を祝いました。

同センターは、町の活性化を図るとともに都市との交流活動などに利用する目的で建設され、鉄骨造平屋建て、床面積は658.13㎡で広い駐車場が備えられています。施設内には地場産品開発室、漬物加工体験室、ふるさと交流室、更衣室（シャワー付）などがあり、広い調理スペースやそばの加工機械がそろえられ、設備も充実しています。

来年度には、同センターを利用して都市との交流を図る「体験農園」を実施する予定となっています。



今年1年の厄難 払い落とす

1月4日、「金木町合同厄払い」が中央公民館で開催され、今年大役を迎える男女103人が今年1年の厄除けを行いました。

数え年で男性42歳、女性33歳は大厄にあたり、災難にあうおそれが多い年のため言動を慎むようにといわれています。今年の大厄には、昭和35年4月2日から36年4月1日生まれの男性49人と昭和44年4月2日から45年4月1日生まれの女性54人が参加。

式では、出席者一人ひとりの名前が記された祝詞を神主が奏上し、代表者が玉串を奉奠。厳粛な雰囲気の中、厄払いの神事が行われました。

式後の祝宴では、実行委員を代表し泉谷和宏さんが「無事に厄払いを終え、21世紀の始まりに光明を見出すことができました」とあいさつ。続いて角田助役が「皆さんは働き盛りの年代ですが厄年は自分の足跡を振り返る良い機会です。これを機にますます活躍されることを願います」と祝辞を述べ、出席者を激励していました。



ま ち の

町の飛躍を誓い合う「町民新年の集い」



「平成13年町民新年の集い」が1月5日、町の各代表者や一般町民ら約200人が出席して中央公民館で開催されました。

はじめに對馬裕子さんのピアノ伴奏に合わせて出席者全員で君が代と1月1日を斉唱。続いて鳴海町長が「新世紀を迎え、市町村合併がさげばれる中、金木町をどう生かして行くか考えなければならない。また下水道の整備や金木川改修事業、教育環境の充実など多くの課題がありますが、今後とも町政伸展のため尽力します」と年頭のあいさつを述べ、原田一實小田川土地改良区理事長と今誠康町商工会長が年頭の抱負を述べました。

この後、綾鶴会と扇謡会の皆さんが日本舞踊と津軽民謡手踊りをそれぞれ披露。出席者らは、21世紀の幕開けを祝うとともに町の発展を誓い合っていました。

町民を対象に市町村合併勉強会

中央公民館で1月10日、全町民を対象とした「市町村合併勉強会」が開催されました。

勉強会には約70人が出席。鳴海町長のあいさつに続き、講師の県地方課職員が市町村の現状と課題、合併の必要性やメリット・デメリット、県が推進する合併パターン、県や国の支援策などについて説明しました。

その後の質疑応答では、鳴海町長が市町村合併は町民の意志が重要であることから、①年度内に町内全世帯に対しアンケート調査を実施し、その結果を町民にお知らせしたい。②金木町が有利になる方向で検討したい。などと当面の方針を示しました。



「新世紀を 迎えて」

ふるさとかなぎ会
会長 工藤 源次郎

新年あけましておめでとう
ございます。

郷里金木町をはじめ会員の
皆様には多大なるご支援とご
協力を賜り深く感謝申し上げ
ます。

自己紹介が遅れましたが、
私はこの度、ふるさとかなぎ
会会長の重責を担うこととな
りました藤枝出身の工藤源次
郎と申します。

郷里の繁栄と関東一円の金
木町出身者やゆかりある人々
の親睦を目的に発足した「ふ
るさとかなぎ会」も早七年目
を迎えました。

バブル崩壊により、一時は
転居先不明の会員が続出した
こともありましたが、平成十
二年度総会における会員数は
三百余名を数えております。

ふるさとの金木町は東京に
おいて著名な町の一つです。
私たち会員が出身地をたずね
られたときに「青森の金木町
です」と答えると、「ああ、太
宰の町だね」あるいは「吉幾

三の出身地だね」とよく言わ
れます。遠くにふるさとを離
れた私たちはふるさとに対す
る熱い想いを抱き続けていま
す。これは、恋人に対する想
いと同じものかも知れません。
金木町出身者は関東周辺に
数千名いるともいわれており
ます。ご親戚、同級生、どな
たかお知り合いがいらっしゃ
いましたら、ふるさとかなぎ
会事務局または会員にご一報
いただければ幸いです。

今年度は県人会において、
ふるさと訪問ツアーが企画さ
れており(六月の予定)、金木
町も訪問地に入っております。
帰郷の際に訪問いたしますの
で、ご協力お願いします。

また、平成十二年度事業計
画の一つに金木町物産品の販
売への協力を掲げ、郷里のた
めにご協力できることから始
めたいと考えております。
二十世紀で基礎は創りまし
た。

二十一世紀はふるさと共々
飛躍したいと考えております。
皆様方の一層のご支援とご
協力をお願い申し上げます。
併せて二十一世紀が幸多からんこ
とをお祈りして、年頭のあい
さつといたします。